

2016年9月20日掲載

「共働きという選択」

わが家は夫、私、3歳の息子の3人暮らしである。札幌在住だが、夫も私も出身は道外のため親は近くにいない。すぐに頼れる環境ではないため、一番大変なのは子どもが熱を出したときだ。先日も私の出張時に子どもが熱を出し、夫に会社を休んでもらった。一方、夫が急に仕事が入った時には私の出張先に息子を連れて行ったりもした。子育ては一人ではできないと日々実感している。

そこまでしてなぜ働くのか、と言われたら、両親が共働きだった影響や、生活のためでもあるが、「働きたいから」だと思う。多様な分野の人と出会い刺激を受けたり、仕事で誰かに貢献できたりすることにやりがいを感じる。

年々、共働き世帯は増えている。独立行政法人労働政策研究・研修機構によると、2000年ごろに専業主婦世帯を上回って以降、15年は全国で約1114万世帯が共働き世帯であるという。働く女性が増えている今、自治体や企業では女性のキャリアプラン形成の研修が増えており、依頼も多い。結婚や出産、育児などライフスタイルが大きく変わりやすい女性の、職場で活躍するための働き方が求められている。

少子高齢化が進み労働力が低下する中で、女性の活躍がますます期待されている。最近では小規模保育など保育サービスの拡充も図られている。共働きを選択した場合、さまざまなサービスも活用しながら、自分らしいライフスタイルで働いていける女性が増えることを願っている。

(毎日新聞)